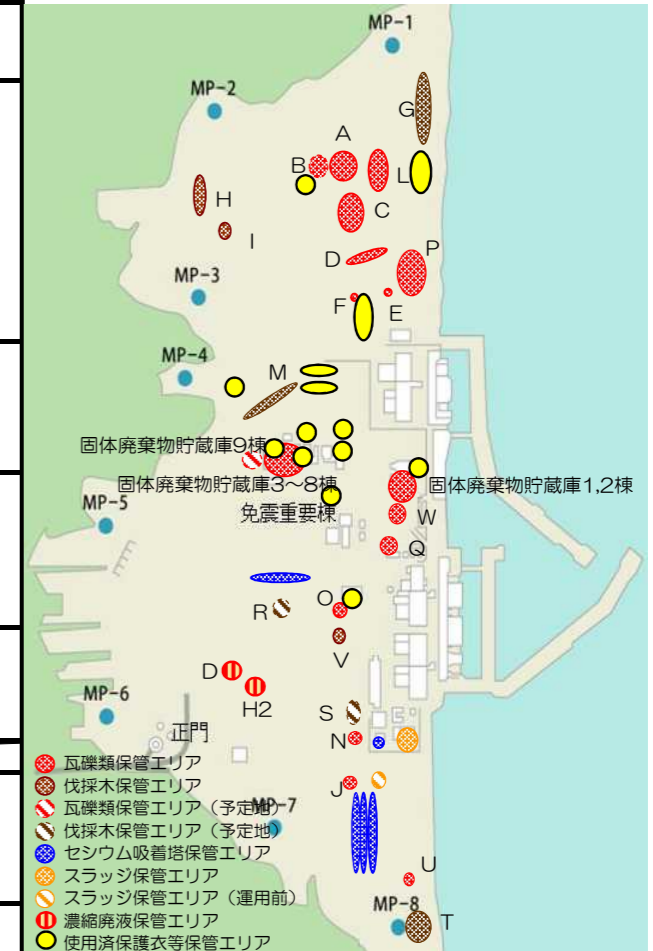


瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2016.10.31 時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量*1	前回報告比*2 (2016.9.30)	変動*3 理由	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類 屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01	2,800 m ³	+300 m ³	①②③	53%	133100 / 181200 (73%)	・フランジタンク解体片 エリアPにて一時保管中。(2015年6月15日~) 2016年10月末時点で314基(コンテナ)保管。 ・エリアCの焼却可燃物 リスク低減の観点から容器収納しエリアPにて一時保管中。
	C	屋外集積	0.01未満	47,800 m ³	-3,800 m ³	②③④⑤⑥⑦	76%		
	F	屋外集積	0.01未満	5,900 m ³	0 m ³	—	79%		
	J	屋外集積	0.01	4,300 m ³	0 m ³	—	89%		
	N	屋外集積	0.01	4,500 m ³	0 m ³	—	45%		
	O	屋外集積	0.01	26,200 m ³	0 m ³	—	95%		
	P	屋外集積	0.01	40,900 m ³	+6,200 m ³	①②⑧	64%		
瓦礫類 シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600 m ³	0 m ³	—	88%	30400 / 57300 (53%)	・エリアE、エリアPの瓦礫類について、リスク低減の観点から 容器収納へ移行中。
	E	シート養生	0.02	8,900 m ³	+1,400 m ³	③④	56%		
	P	シート養生	0.02	6,100 m ³	+100 m ³	⑨	67%		
	W	シート養生	0.05	12,800 m ³	-8,200 m ³	⑥	44%		
瓦礫類 覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100%	20300 / 27700 (73%)	・覆土式一時保管施設(第3槽) 瓦礫類収納完了:2015年8月21日 仮覆土:2015年10月26日完了
	A	仮設保管設備	0.30	1,700 m ³	微減	—	24%		
	E	容器*4	0.02	300 m ³	0 m ³	—	19%		
	F	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99%		
瓦礫類 固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物 貯蔵庫	容器*4	0.02	7,600 m ³	+100 m ³	①③⑩	63%	7600 / 12000 (63%)	・主な瓦礫類は、1~3号機建屋で発生した高線量瓦礫類。
	合計(カレキ)			191,500 m ³	-3,900 m ³	—	69%		
伐採木 屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01未満	14,700 m ³	0 m ³	—	74%	70200 / 81500 (86%)	・工事により発生した幹・根を随時受入中。
	I	屋外集積	0.01	10,500 m ³	0 m ³	—	100%		
	M	屋外集積	0.01未満	39,500 m ³	0 m ³	—	88%		
	V	屋外集積	0.03	5,500 m ³	0 m ³	—	92%		
	G	伐採木一時保管槽 (枝・葉)	0.01未満	8,500 m ³	0 m ³	—	65%		
T	伐採木一時保管槽 (枝・葉)	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94%			
合計(伐採木)			89,800 m ³	0 m ³	—	84%			
保護衣 屋外集積	容器	0.02	69,600 m ³	+1,300 m ³	⑪	98%	69600 / 71200 (98%)	・雑固体焼却設備の運用開始(2016年3月18日) ・使用済保護衣等焼却量 744t(2016年10月末累積) ・焼却灰のドラム缶数 112本(2016年10月末累積)	
合計(使用済保護衣等)			69,600 m ³	+1,300 m ³	—	98%			



※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

※2 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。

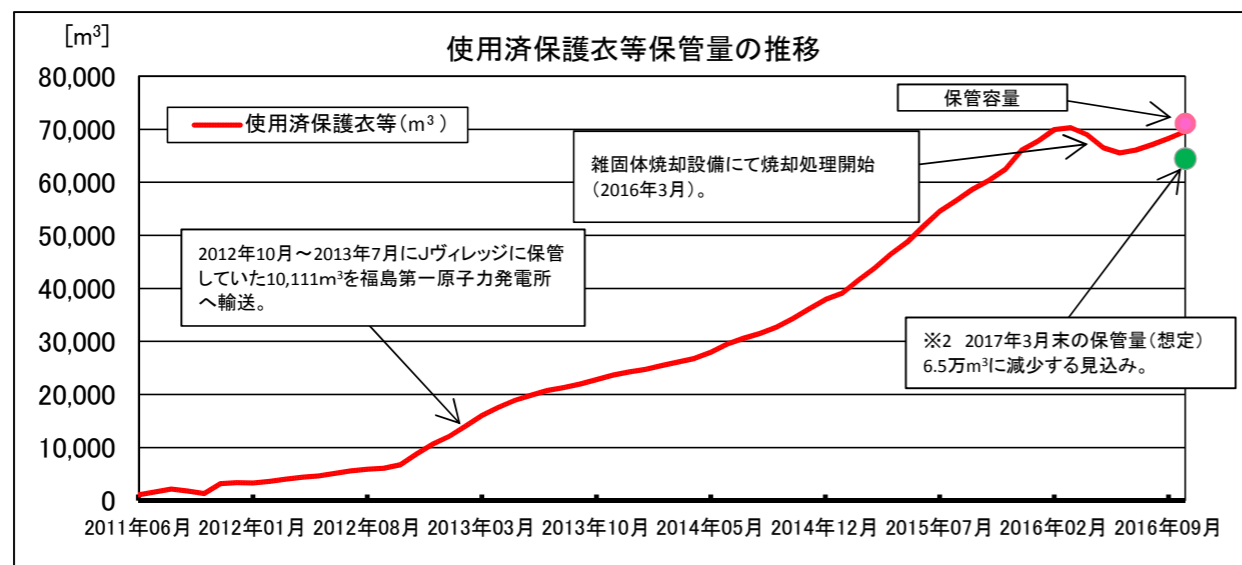
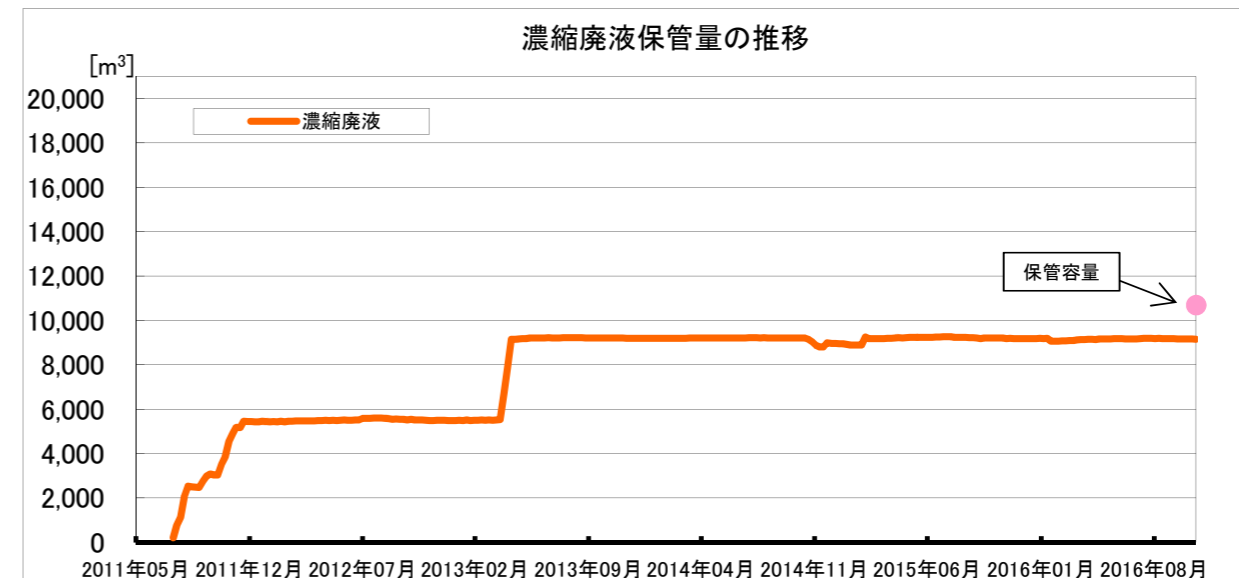
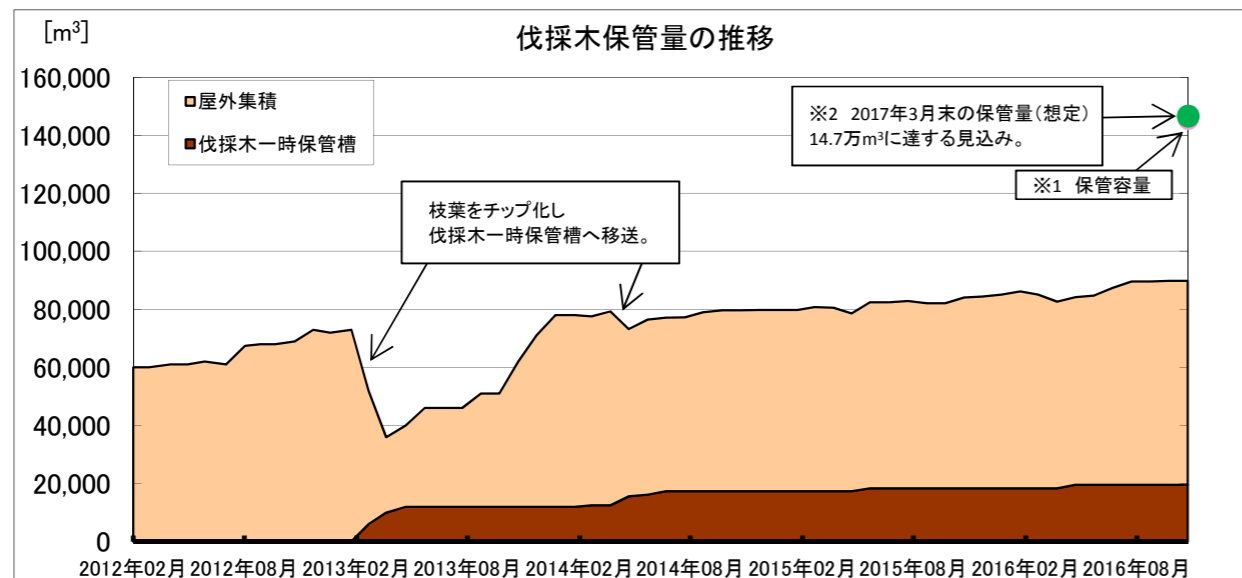
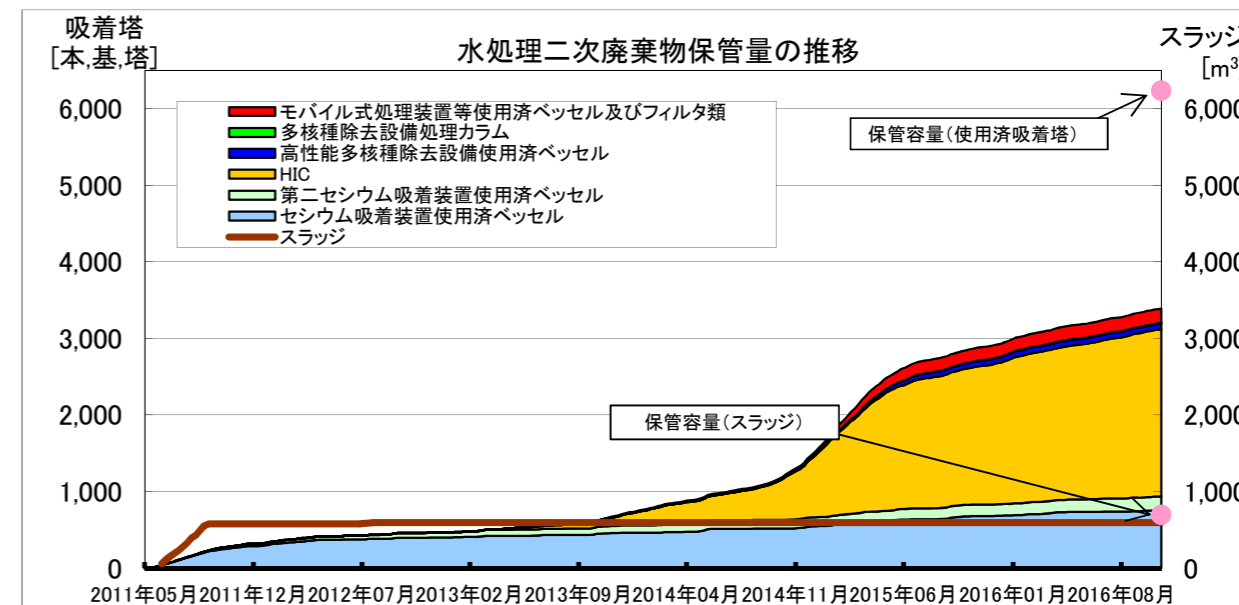
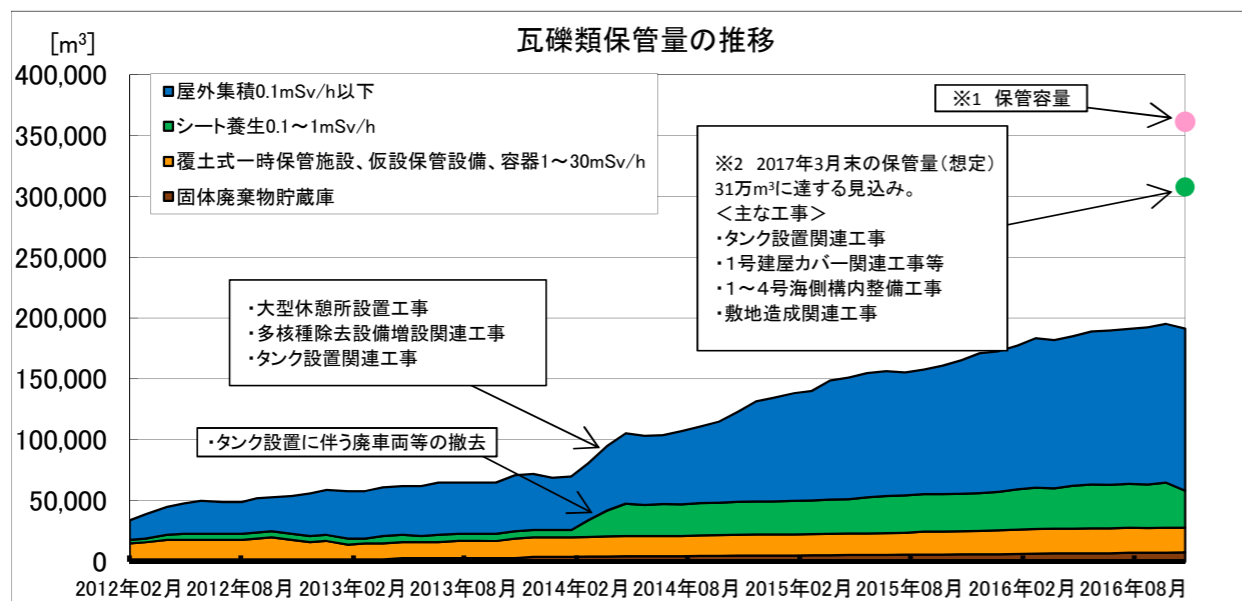
※3 主な変動理由: ①焼却対象物の受入 ②タンク設置関連工事 ③1~4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ④フェーシング工事 ⑤焼却対象物を一時保管エリアPへ移動 ⑥エリア整理
⑦一時保管エリアPから金属瓦礫受入 ⑧金属瓦礫を一時保管エリアCへ移動 ⑨瓦礫の受入 ⑩水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)の保管 ⑪使用済保護衣等の受入

※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2016.11.17時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2016.10.20)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済バessel	758 本	+4 本	3389 / 6239 (54%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日)	
		第二セシウム吸着装置使用済バessel	178 本	+2 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,251 基			+11 基
			増設	933 基			+10 基
		高性能多核種除去設備使用済バessel	高性能	73 本			0 本
		多核種除去設備処理カラム	既設	9 塔			0 塔
モバイル式処理装置等使用済バessel及びフィルタ類		187 本	+1 本				
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液		9,156 m ³	-11 m ³	9156 / 10700 (86%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) ・保管量に「タンク底部~水位計0%の水量(DS)」を含んでいない。(約100m ³)	

瓦礫類・伐採木・水処理二次廃棄物・濃縮廃液・使用済保護衣等の保管量推移



※1 瓦礫類・伐採木の保管容量は、実施計画(2015年7月17日認可)の保管容量を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の2016年度末の保管量(想定)は、2015年7月の予測値。